

平成28年1月21日

# 鳥海山噴火に対する防災のポイント

秋田大学地域教育文化学部  
教授 林信太郎 先生より

- 鳥海山は、数十年に一度の割合で噴火を繰り返しているので、**必ず噴火する**可能性がある。(活火山)
  
- 高瀬地区で危険性があるのは、融雪型の**火山泥流**である。
  - ・融雪型の火山泥流とは、噴火により積雪が解け、火山灰と混ざった破壊力のある泥流が急速に谷を流れてくる現象である。(山津波)
  - ・融雪型の火山泥流は、山に**雪が多い時期に注意が必要**である。
    - ・**鳥海湖周辺で噴火した場合**に、高瀬地区に流れてくる可能性がある。
    - ・鳥海湖周辺で噴火する割合は、**10回に1回程度**である。
    - ・高瀬小学校の周辺では勢いがなくなってくるので、コンクリートで建てられている**校舎の2階に避難すれば安全**である。
  - ・10回に9回は頂上周辺で噴火する可能性が高いが、その場合の火山泥流は秋田県側にほとんど流れる。
  
- 鳥海山の溶岩の流れは遅いので、あわてずに遠くに避難すれば安全である。
  
- 噴石が高瀬地区まで飛んでくることは、ほとんどない。
  
- 登山中に噴火にあった場合は、いろんな角度から噴石が飛んでくる可能性があるがあるので、大きな岩陰などに身を隠すことが大切である。
  
- 突然噴火することはない。噴火には必ず予兆があり、火山学会で感知できるようになっているので、情報を大切にしてほしい。

## [備考]

- ・どうしても学校から二次避難する必要がある場合は、菅里体育館（歴史民俗学習館）が避難場所となる。【町のハザードマップより】